

東北の林木育種

No.235 2024.3

東北育種場長着任のご挨拶

場長 三重野 信

1. 就任ご挨拶

平素より、育種事業の業務にご協力をお願いし、厚く感謝申し上げます。

昨年の11月1日付で中村場長に代わり東北育種場長を拝命いたしました三重野と申します。前任地の林野庁森林利用課では、「花粉症に関する関係閣僚会議」の事務作業等にも従事しておりました。花粉症に苦しむ国民や関係者のご苦勞を少しでも軽減するため、また、日本の林業や国土保全等に資するため、微力ではありますが尽力して参りますので、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2. 令和6年度にあたって

令和6年度は、2021年～2026年までを期間とする森林研究・整備機構の第5期中長期目標及び計画の次期計画制定まであと2年となる年で、今後の機構や育種事業のあり方について議論が盛んに行われる年になると思われます。

林野庁で東北育種場長への異動の内示を受けた際に、経営学者ピーター・ドラッカーの有名な言葉に倣って「育種事業の顧客は誰で、顧客の片付けたい用事は何か？」という問いが真っ先に頭に浮かびました。それくらい育種事業について知識が無かったということでもあります。知識が無いのはゼロベースで考える上で丁度良かったとも思えます。

育種事業は、大変長い期間を要し、先人たちのご苦勞や成果の上に立脚していることから、この財産を活かし守り続けることをまず一番に考えるべきですが、他方、林木育種に対するニーズは時代の流れによって変化していきます。苗木を購入する森林所有者様や行政の育種上のニーズに添えていくにあたって、ニーズの変化を先取りして準備しておく必要があります。

3. 早い馬が欲しい

とは言うものの、森林所有者様や行政の声を直接聞きとったとして、それが本当に彼らの求めている物（片付けたい用事）なのか大いに疑う必要があります。マーケティングの世界では、「顧客は、自分が何を欲しているのかに気付いていない」ということがよく語られます。ヘンリー・フォードの有名な逸話に「(T型フォードが普及する前の)顧客に何が欲しいと尋ねれば、人は皆『もっと早い馬が欲しい』と答えていただろう」というものがあります。一般の顧客は目の前の改善レベルでの想定は出来ても、将来のことまで見通せないというものです。

また、「顧客は10mmのドリルが欲しいのではない、10mmの穴が欲しいのだ！」という格言もよく唱えられます。

4. 育種事業の展開方向

では、顧客に聞いても分からない中、どうすればニーズを把握（創造）できるのでしょうか。マーケティングの現場では、丁寧な消費者インタビューを50人くらいに行くと、顧客が真に欲している物（片付けたい用事）の片鱗が垣間見える瞬間があり、それを見つけないのがマーケティングの腕の見せ所とのことです。我々も、捕らわれのない目で需要家からマーケティング調査をすると、もしかしたら、育種事業の新たな展開すべき方向が見えてくるかもしれません。

次期長期計画策定を控えたこのような機会を捉えて、育種事業のあり方なども考えてみたいと思っております。ご指導、ご鞭撻のほどよろしく願いいたします。



2024年3月号の紙面

東北育種場長着任のご挨拶	1
【報告】	
技術指導の実施について	2

【報告】	
「東北育種基本区特定母樹等普及促進会議」及び「林業研究・技術開発推進東北ブロック会議育種分科会」開催報告	3
【報告】	
東北育種場の研究事業についてPR	4



【報告】

技術指導の実施について

育種技術専門役 福田 友之

東北育種場では、東北育種基本区内の各県からの要望に応じて、クローン増殖の方法や採種園等の造成管理に関する技術指導を実施しています。

令和5年度は、これまで宮城県、秋田県、山形県、新潟県からの要望を受けて、スギ採種圃園やクロマツ採種圃園の樹形誘導等やクロマツのつぎ木増殖の手法等について、技術指導を実施しましたので概要をご紹介します。

1. スギ・クロマツ採種圃園の管理に関する技術指導

宮城県林業技術総合センターにおいて、スギの育種子生産を目的としたミニチュア採種圃園及びマツノザイセンチュウ抵抗性クロマツからの種子生産を目的とした採種圃園の管理を支援するため、職員等を対象にスギミニチュア採種圃園とマツノザイセンチュウ抵抗性クロマツ採種圃園の樹形誘導・管理について、実技を交えた指導と意見交換を行いました(写真-1)。



写真-1 クロマツ採種圃園の剪定に関する説明の様子

2. スギ・クロマツ採種圃園等の管理やクローン苗の育成、系統管理に関する技術指導

秋田県林業研究研修センターの職員等を対象に、スギ・クロマツの種子生産やスギのさし穂生産を目的とした採種圃園の管理とクローン苗の育成、系統管理を支援するため、東北育種場において、スギ・クロマツの採種圃園等の樹形誘導・管理やクローン苗の育成方法、系統管理について、実技を交えた指導と意見交換を行いました(写真-2)。



写真-2.1 クローン苗の育成に関する説明の様子



写真-2.2 クロマツ採種圃園の剪定に関する実技の様子

3. クロマツのつぎ木によるクローン増殖に関する技術指導

山形県森林研究研修センターの職員等を対象に、クロマツ採種圃園のつぎ木増殖を支援するため、奥羽増殖保存圃園において、クロマツのつぎ木によるクローン増殖の手法・管理について、実技を交えた指導と意見交換を行いました(写真-3)。



写真-3 クロマツつぎ木増殖手法の実技の様子

4. スギ採種圃園の管理に関する技術指導

新潟県森林研究所において、スギのさし穂生産を目的とした採種圃園の管理を支援するため、職員等を対象にスギ採種圃園の樹形誘導・管理について、実技を交えた指導と意見交換を行いました(写真-4)。



写真-4 スギ採種圃園の剪定に関する実技の様子

東北育種場では、林木育種事業に携わる皆様のご要望に適切に対応出来るよう今後も引き続き、各種の技術支援に取り組んでまいります。

【報告】

「東北育種基本区特定母樹等普及促進会議」及び「林業研究・技術開発推進東北ブロック会議育種分科会」開催報告

令和5年10月5日に森林総合研究所東北支所（岩手県盛岡市）において、「東北育種基本区特定母樹等普及促進会議」及び「林業研究・技術開発推進東北ブロック会議育種分科会」が4年ぶりに参集形式で開催されました（写真）。各会議の概要を報告します。



写真 育種分科会における各機関からの概要説明

1. 東北育種基本区特定母樹等普及促進会議

林野庁から、森林の間伐等の実施の促進に関する特別措置法、森林・林業基本計画、「みどりの食料システム戦略」を踏まえたエリートツリー等の種穂の採取源の計画的整備、認定特定増殖事業者の認定状況、特定母樹の指定状況と応募スケジュール、花粉症対策の全体像、花粉の少ないスギ苗木の生産量の推移について説明がありました。

東北育種場からは、当基本区において令和5年9月現在、特定母樹としてスギ98系統、カラマツ22系統、エリートツリーとしてスギ133系統、カラマツ44系統が指定されている等の状況説明や、令和5年度の原種配布数量及び各県から回答のあったアンケート結果などを報告しました。

各県から、特定母樹の早期配布等について要望があり、東北育種場より原種園の拡充を進め、配布数量の確保に努めていくとの回答を行いました。

最後に森林保険センターから、森林保険制度の概要について説明がありました。

2. 林業研究・技術開発推進東北ブロック会議育種分科会

① 林野庁・林木育種センターからの説明事項

林野庁からの令和6年度の林木育種関係予算の

概算要求についての説明後、林木育種センターからエリートツリー選抜の流れ、スギ花粉発生源対策方針の改正と今後のスギ雄花調査、無花粉遺伝子を持つスギ精英樹等の情報、農林水産研究推進事業委託プロジェクト研究「日本全国の林地の林業採算性マトリクス評価技術の開発」、林野庁補助事業 エリートツリーの原種増産技術の開発事業—増殖技術の最適化と施設型採種園の管理技術の開発—及び令和5年度林木育種成果発表会の開催についての説明を行いました。

② 林木育種事業の推進について

東北育種場からスギ、カラマツの第2世代精英樹の選抜やマツノザイセンチュウ抵抗性品種の開発状況、各県の採種園造成状況、育種種苗の原種の配布状況等、林木ジーンバンク事業の進捗状況について報告を行いました。

③ 各機関からの要望事項について

東北森林管理局から各機関へ、ユリノキの更新特性の解明及び優良種子の供給、コンテナ苗のコスト低減についての要望があり、各機関からユリノキの国内での更新事例は少ないことや、コンテナ苗について生産者等の要望に添って可能な限り対応していきたいとの回答がありました。

また、各県から林野庁へ花粉の少ないスギ採種園管理にかかる補助の拡充について要望があり、林野庁から令和6年度予算要求をしているところであり、引き続き予算確保に努めると回答がありました。

④ 情報提供について

東北森林管理局から、コンテナ苗の使用状況、低コスト造林の取組、ブナの開花・結実予測について、秋田県から認定特定増殖事業者による種子生産について、東北育種場から令和3・4年度の種子生産状況の紹介について情報提供がありました。

以上、活発な意見交換により、当基本区における特定母樹等の開発・普及や林木育種事業の推進についての課題や共通認識を深め、会議を終えました。

（連絡調整課 濱本 光）

【報告】

東北育種場の研究事業についてPR

1. エフエム岩手「夕刊ラジオ」に出演

東北育種場では、例年10月に森林総合研究所東北支所と森林整備センター盛岡水源林整備事務所とともに一般公開を実施していましたが、今年度は昨年に引き続き新型コロナウイルス感染症防止対策のため中止となりました。このため、一般公開に代わる取り組みとして、昨年10月から今年3月まで毎月第2火曜日にラジオ放送で3機関が研究や事業の紹介を行いました。

11月を担当した東北育種場からは、「花粉の少ないスギができるまで」をテーマに宮本尚子主任研究員が出演し、現在取り組んでいる「花粉の少ないスギ品種の開発」について紹介しました。(写真-1, 2)

いまや国民病といわれる「花粉症」についての話題だったので、リスナーの方にも関心を持っていただけたのではないかと思います。



写真-1 ラジオ局スタッフとの打ち合わせ



写真-2 ラジオ放送の収録風景

ご多忙のさなか当機構の広報活動に、ご協力をいただきましたエフエム岩手の関係各位に御礼申し上げます。

2. 令和5年度岩手県林業技術センター、森林総合研究所東北支所、林木育種センター東北育種場合同成果報告会で研究事業の成果を発表

岩手県林業技術センター、森林総合研究所東北支所、林木育種センター東北育種場の3機関合同による、令和5年度の合同成果報告会が令和6年2月7日に、プラザおでって(岩手県盛岡市)にて開催され、東北育種場からは、井城泰一育種課長が「東北育種基本区における花粉の少ないスギ品種について」、三嶋賢太郎育種研究室長が「林木育種センターにおけるスギ花粉症対策品種の開発について」の2課題を発表しました。(写真-3, 4)

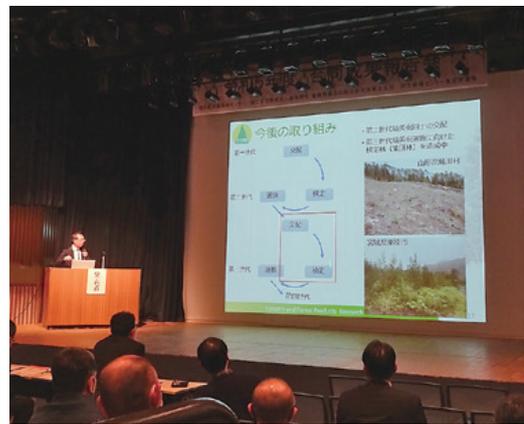


写真-3 井城育種課長による事業成果の発表



写真-4 三嶋育種研究室長による研究成果の発表

(連絡調整課 濱本 光)

リサイクル適性(A)
この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。



東北の林木育種 No.235

発行日 2024年(令和6年)3月25日

編集・発行 国立研究開発法人 森林研究・整備機構
森林総合研究所林木育種センター東北育種場

〒020-0621 岩手県滝沢市大崎95

TEL (019) 688-4518 FAX (019) 694-1715

<https://www.ffpri.affrc.go.jp/touiku/>

©2009 Printed in Japan 禁無断転載・複写